

令和7年度 学校法人鈴木学園 自己点検評価

実施・作成日	2026/02/06
学校名	中央動物総合専門学校
学科名	愛玩動物看護学科

大項目	小項目	評価の基準		自己点検
【項目1】 教育理念・目的・目標	1教育理念、目的及び目標の設定等	① 教育理念等に基づく目的・目標・人材像	a)教育理念を踏まえた学校の目的および目標が文書として明確に定められていること b)養成する人材像が学科・コースごとに整理され、関係資料に明示されていること c)上記が教育活動の基本方針として活用されていることを資料等で確認できること	2
		② 鈴木学園クレド（法人独自）	a)クレドの周知・理解促進に関する取組が定められていること b)当該取組が継続的に実施されていること c)教育活動や学生対応等の日常業務における実践状況を確認できること	2

【評価結果の分析】

毎日終礼で学生・教員がクレドを読み上げ目標を確認している。  
ただし学科ごとの人材像等は具体的に提示されてはいない。

【今後の改善方策】

- ・ 学生便覧や学科パンフレット、教室掲示物へ、学科固有の「目指す人材像」を反映させていく。
- ・ 振り返りシートなどを利用し「今週のクレドに関連した自分の行動」を記入する欄を設け、反映させていく。

大項目	小項目	評価の基準		自己点検	
【項目2】 教育課程・教育の実施・学修成果	1教育課程の編成と授業科目	① 教育課程編成（体系的・系統性・段階性）	a)教育課程編成・実施方針が定められていること b)方針に基づき教育課程が体系的に編成され、系統性・段階性に配慮した授業科目が配置されて c)方針および編成内容を関係資料で確認できること	3	
		② 留学生対応科目（300時間）【注：外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	a)日本社会の理解促進に資する授業科目が設定されていること b)当該授業科目が300時間以上実施されていること c)時間数・実施状況を資料で確認できること	該当なし	
		① 授業形態・教材・成績評価	a)授業科目内容に応じた授業形態および教材の方針（または内容）が定められていること b)授業が計画に基づき実施されていること c)成績評価基準に基づく成績評価が行われていることを確認できること	3	
	2教育の実施	② 企業等と連携した実習・演習等【注：職業実践専門課程】	a)企業等と連携した実習・演習等の位置付けが明確にされていること b)単位時間または単位数の総授業時数に占める割合（または時間数）が具体的に設定されている c)実施状況および設定内容を資料で確認できること	3	
		3単位・卒業認定	① 卒業認定方針・認定運用	a)卒業認定方針（資格・免許等、修得させる職業能力を含む）が学科・コースごとに定められて b)当該方針に基づき単位認定および卒業認定が行われていること c)認定の基準および運用状況を資料で確認できること	3
	4学修成果目標の達成状況	① 資質能力（資格・知識・技術・技能）の目標達成	a)卒業認定方針を踏まえ、資質能力の修得（資格・免許取得、知識・技術・技能の修得等）の目 b)目標に対する実績が把握されていること c)達成状況を資料で確認できること	3	
			② 進路実現の目標達成	a)学生が望む進路の実現に関する目標が定められていること b)目標に対する実績が把握されていること c)達成状況を資料で確認できること	3

【評価結果の分析】

・ 小項目1については、課程表・シラバスに記載されており、外部からの意見・教育の改善点を反映している、毎年を課程表に反映し学生に通知する場を設けている。  
また、カリキュラムに関して進級ごとに難易度が上がるように教育内容を調整している。

・ 小項目2については、課程表・シラバスに記載されており、外部からの意見・教育の改善点を反映している、毎年を課程表に反映し学生に通知する場を設けている。  
また使用教材に関してはシラバスに明記を行っている。  
課程表に時間数の記載がしている。

・ 小項目3については、前期、後期に期末試験を行っている。  
また認定の基準（8割の出席率・6割の合格ライン）を明確に設けている。

・ 小項目4については、前期、後期に期末試験を行っている。  
また認定の基準（8割の出席率・6割の合格ライン）を明確に設けている。

【今後の改善方策】

- ・ 職業実践専門課程として、実習や演習における「技能・態度の評価指標（ルーブリック）」をより詳細に設定し、筆記試験だけでは測れない実力の達成度を可視化する。

・ 本校では、前期・後期の節目に筆記による期末試験を実施し、基礎知識の定着を正確に測定していく。  
加えて、愛玩動物看護学科においては「実技試験」を導入。知識の習得にとどまらず、現場で即戦力となるための実践的な技術・対応能力までを多角的に評価する体制を整えていく。

大項目	小項目	評価の基準	自己点検	
【項目3】 学生の受入れ 学生支援	1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	① 受入方針・選考基準・方法の明示と公正な選抜	a) 入学者の受入方針、入学選考基準、選考方法が定められていること b) 入学希望者に対して、上記が明示されていること c) 定めた基準・方法に基づき、選考を公正に行い、合否を決定していること	3
		② 定員に基づく受入・適正管理【注：修学支援新制度/留学生キャリア形成促進】	a) 入学定員に基づく受入・管理の方針（または運用）が定められていること b) 定員管理が適正に実施されていること c) 管理状況を資料で確認できること	3
		③ オープンキャンパス（法人独自）	a) 募集方針に基づき時期・回数・内容を計画的に設定していること b) 計画に基づき実施されていること c) 実施結果の検証および改善の状況を確認できること	3
	2 自主的な学習の促進に対する支援	① 自主的な学習の促進支援	a) 学力・学習状況を把握する取組が行われていること b) 入学前教育、補習等が実施されていること c) 支援内容及び実施状況を資料で確認できること	3
	3 多様な学生に対する支援	① 多様な学生に対する支援	a) 多様な学生に対応する支援体制が整備されていること b) 支援が実施されていること c) 支援状況を確認できる資料が整備されていること	3
		② 留学生の在籍管理・進路指導・交流機会【注：留学生キャリア形成促進】	a) 留学生の適正な在籍管理および進路（就職）指導が行われていること b) 日本人学生との交流の機会が確保されていること c) 実施状況を資料で確認できること	該当なし
		③ 相談体制（カウンセラー等）	a) 学生の相談に対応する環境（体制）が整備されていること b) 適切に運営されていること c) 運用状況を資料で確認できること	2
	4 学生生活に関する支援	② 留年者・退学希望者等への対応	a) 学習継続に困難を抱える学生への対応方針（または運用）があること b) 適切な対応が実施されていること c) 対応状況を資料で確認できること	2
		③ 中途退学者分析（法人独自）	a) 中途退学者の理由および実状を把握・分析していること b) 分析結果が教職員間で共有されていること c) 分析・共有・改善活用状況を資料で確認できること	2
		④ 学校保健計画（学校保健安全法）	a) 学校保健計画が策定されていること b) 学生の心身の健康管理体制が整備され、適切に運用されていること c) 運用状況を資料で確認できること	3
		⑤ 経済的支援（周知・運用）	a) 学生の経済的側面に対する支援体制が整備されていること b) 適切に周知され、運用されていること c) 周知・運用状況を資料で確認できること	2
		⑥ キャリア支援・就職支援（周知・運用）	a) キャリア支援、就職支援の体制が整備されていること b) 適切に周知され、運用されていること c) 周知・運用状況を資料で確認できること	2
		⑦ 資格試験合格率の把握・分析（法人独自）	a) 合格率について目標値、過年度実績、外部データ等との比較により水準を把握していること b) 分析および改善に取り組んでいること c) 把握・分析・改善の状況を資料で確認できること	3
		⑧ 不合格者支援と効果検証（法人独自）	a) 不合格者に対し原因分析を行っていること b) 補講や個別指導等の対策が実施されていること c) 対策の効果検証を資料で確認できること	2

【評価結果の分析】

・小項目1については、AO入試等の方針が募集要項に記載されている。  
また統一された面談のシートを使い、入試者の評価を行っている。  
またオープンキャンパスの傾向や歩留表を作成している。

・小項目2については、入学前から課題を設け入学後の学業に対する取り組みを行っている。  
また学生の目標の達成度合いを確認する振り返りシートを設けている。また補習管理表を作成し時間数が足りない学生に対し補習を実施している。

・小項目3については、スクールカウンセラーを設け、学生は誰でも利用が出来ることを4月の授業内で説明を行っている。また学生から要望があった場合のカウンセラーとの面談内容は教員も把握し、面談記録として記録を残している。  
そして学生の悩みに関して特定の関係者しか閲覧できないアンケートを定期的実施し、意見に関して改善等を行っている。

・小項目4については、CBTを利用して経時的に模試のデータを収集、また複数社の全国模試を取り入れて学力水準を測っている。

【今後の改善方針】

・入学前から始まる、一人ひとりに寄り添う個別指導を継続し実践する。  
入学前教育を通じて見えてきた「得意分野」や「つまづきやすいポイント」は、データとして入学後の担任や教科担当（非常勤講師）へ確実に引き継ぎを行う。

・「悩みがあるから相談する」という受け身の姿勢だけでなく、定期的な面談を継続的に実施し予防的な支援策を年間スケジュールに組み込む。

大項目	小項目	評価の基準		自己点検
【項目4】 教育実施組織・教員	1教員の配置、募集、採用	① 採用基準・確保・運用	a)必要な資格・要件を備えた教員を確保するための基準（採用基準等）が整備されていること	3
			b)基準に基づき適正に運用されていること	
			c)運用状況を資料で確認できること	
	2教員の組織編制等	② 教員構成・授業時数・専門性／教授力の把握・評価	a)常勤・非常勤、年齢構成、教員一人当たり授業時数等を把握していること	3
			b)教員の専門性および教授力を把握・評価していること	
			c)把握・評価の状況を資料で確認できること	
	3教員の資質の向上	① 組織整備・業務分担・責任体制	a)分野の区分ごとに必要な教員組織が整備されていること	2
			b)業務分担および責任体制が規程等で定められていること	
			c)運用状況を資料で確認できること	
		② 教員間の連携・協力体制	a)教員間の連携・協力体制が構築されていること	2
			b)当該体制が継続的に機能していること	
			c)取組状況を資料で確認できること	
③ FD等・研究／自己啓発支援	① FD等・研究／自己啓発支援	a)教育改善に向けたFD等の取組が行われていること	2	
		b)研究活動、自己啓発等への支援が行われていること		
		c)取組状況を資料で確認できること		
	② 企業等と連携した教員研修（組織的）【注：職業実践専門課程】	a)企業等と連携した教員研修が組織的に行われていること	該当なし	
		b)継続的に実施されていること		
		c)実施状況を資料で確認できること		
③ 授業・指導力向上研修（企業等連携・組織的）【注：職業実践専門課程】	a)授業および指導力等の向上を目的とした研修が企業等と連携して組織的に行われていること	該当なし		
	b)継続的に実施されていること			
	c)実施状況を資料で確認できること			

【評価結果の分析】

- ・小項目1については、おもに愛玩動物看護師および獣医師の資格保有者。
  - ・小項目2については、教員の経歴や職歴、資格取得時期等を記載した表を作成しており、毎年点検を行っている。
  - ・小項目3については、教員は研修の場が設けられ自身の教育に関してまた教育に生かすための講習に参加することが出来る。
- また参加した研修に関して報告書をまとめ提出を行っている。

【今後の改善方策】

- ・「専門性」を授業に活かす（アウトプット）を計画的に実践していく。
- 資格を持っているだけでなく、それをどう授業に反映したかを明確にして  
例) 最新の動物医療技術をカリキュラムに取り入れ、実習内容をアップデートしていく。  
例) 国家試験の傾向を分析し、的中率の高い対策プリントを自作する。

大項目	小項目	評価の基準		自己点検
【項目5】 教育環境	1教育環境の整備	① 施設・設備等の整備	a)教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること	3
			b)教育活動に活用できる状態で維持されていること	
			c)整備状況を資料で確認できること	
	2安全対策、防災組織	② 学習支援施設・休憩／食事スペース	a)自習室等の学習支援施設が整備されていること	2
			b)学生の休憩・食事のためのスペースが確保されていること	
			c)整備状況を資料で確認できること	
	3施設・設備等の点検、改善等	③ 図書室・専門書／参考図書	a)図書室が設置され、必要な専門書・参考図書が配架されていること	2
			b)学生が必要に応じて閲覧できる運用がなされていること	
			c)整備・運用状況を資料で確認できること	
		① 学校安全計画（学校保健安全法）	a)学校安全計画が策定されていること	3
			b)学校における安全対策が適切に実施されていること	
			c)実施状況を資料で確認できること	
② 防災体制（組織整備・運営）	a)火災等に備えた防災に関する組織体制が整備されていること	3		
	b)適切に運営されていること			
	c)運営状況を資料で確認できること			
③ 点検・補修の実施	① 点検・補修の実施	a)日常点検、定期点検、補修等が適切に行われていること	3	
		b)点検・補修の記録が整備されていること		
		c)実施状況を資料で確認できること		
	② 改築・改修／更新計画と実施	a)改築・改修、設備更新等の計画が定められていること	2	
		b)計画に基づき適切に実施されていること		
		c)計画・実施状況を資料で確認できること		

【評価結果の分析】

- ・看護実習室には実際の臨床現場で用いている機器や道具をそろえ、実践に即した実習を行えるような設備をそろえている。
- ・図書室には関連書類をそろえ、定期的に確認を行い、学生に必要な書籍を定期的に購入している。

熱中症や台風に関する対策をマニュアル化し対策を行っている。  
施設・設備の安全確保のため、日常点検および計画的な定期点検（半年に1回）を行い、必要に応じて補修・修繕を実施している。

【今後の改善方策】

- ・日常点検に加え、2号基金の活用も念頭に置き、計画的な予算確保を行うとともに、必要な環境整備を実施していく。
- ・「愛玩動物看護師」の国家資格化に伴い、最新の試験対策本や高度医療に対応した専門書を重点的に拡充。古い資料は整理し、情報の鮮度を保つ。

大項目	小項目	評価の基準		自己点検
【項目6】 教育活動の基盤と改善・向上の取組	1中期事業計画と財務基盤	① 中長期計画への位置付け	a)中長期的計画に教育目的・教育目標の実現に向けた具体的内容が位置付けられていること	2
			b)当該内容の進捗を把握できること	
			c)計画・位置付け・進捗を資料で確認できること	
	2学校運営	② 財務基盤	a)教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤が確立されていること	2
			b)財務状況を把握していること	
			c)状況を資料で確認できること	
	3学校評価の実施と改善活動	① 学校運営体制（責任体制を含む）	a)学校運営の組織体制が整備されていること（職業教育に関するマネジメント	3
			b)適切な運営が行われていること	
			c)運営状況を資料で確認できること	
		② BSCによる目標管理（法人独自）	a)BSCを活用した目標管理の運用が行われていること	3
			b)教育活動および学校運営の改善に活用していること	
			c)運用・活用状況を資料で確認できること	
	4社会からの理解と情報の公表	① 外部意見の活用（学校関係者評価委員会等）	a)学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等により外部意見を把握し、学校運営や改善・向	3
			b)意見および反映状況が整理されていること	
c)活用状況を資料で確認できること				
② 教育課程編成委員会（年2回以上）【注：職業実践専門課程】		a)教育課程編成委員会を年2回以上開催していること	3	
		b)議事録等が整備されていること		
		c)開催状況を資料で確認できること		
③ 評価結果・改善状況の公表		a)学校評価を実施していること	3	
		b)結果および改善状況の情報を公表していること		
	c)実施・公表状況を資料で確認できること			
④ 改善の組織的・継続的实施	a)学校評価の結果に基づく改善への取組が行われていること	3		
	b)組織的かつ継続的に実施されていること			
	c)取組状況を資料で確認できること			
	① 情報の積極的公表		a)教育活動、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること	3
			b)公表内容が整理されていること	
c)公表状況を資料で確認できること				
② 社会的理解の促進	a)教育目的・目標の達成状況や活動状況について、関係機関や産業界等を含む社会全体からの理	3		
	b)取組状況が整理されていること			
	c)取組状況を資料で確認できること			

#### 【評価結果の分析】

中期計画は具体的な内容が定まっており、定例の会議で進捗を把握している。進捗の共有は教職員研修会やセクション長会議などで行われているが、教職員への浸透は計画された行動によって行われている。

財務の把握はLeySerシステムの予算管理によって行われており、決算財務分析会議で全体的な把握が行われているが、セクション長を含めた教職員の財務意識の向上が今後必須。

校長を中心とした学校運営組織のもと、学科長および関係委員会が連携し、職業教育の企画・設計・運営に関する役割分担と責任体制を明確にしている。

・学校関係者評価委員、教育課程編成委員等を年2回実施している。その中で、学科としての問題点や教育を行う上での疑問点などを現場の意見等をお聞きし、日々の教育に反映している。例としては本年度、現場の先生の意見を参考に看護1年生のインターンシップを3日から2日に変更するなど実際の意見をもとに変更を行っている

・学校のパンフレット、ホームページ等で教育活動、運営情報などについて公表を行っている。またインスタなどのSNSを通しても、社会への発信を行っている

#### 【今後の改善方策】

・学校全体の学校関係者評価委員会での指摘や自己点検結果を、教員一人ひとりの「個人の目標（BSC）」に必ず組み込みむようにしていく。